

2014年9月27日(土)に京都外国語大学国際言語文化学会第2回大会が、1号館7階小ホールにて開催されました。開会の挨拶では松田武本学会長が、グローバル社会のなかで知識がますます細分化されている今、「隣接する学問領域の成果に常に目を配り、マルチディシプリン、総合教育の方法によって研究対象とする国、あるいは地域の全体像の構築を目指す」とことと、「新しい知の創造」の必要性について述べられました。

基調講演では、本学客員教授の菅英輝氏が「オバマ政権のアジア戦略と日米中韓の関係」と題して、アメリカのみならず、日本や中国、韓国それぞれの政治的視点から、昨今の緊迫する世界情勢について語られました。

午後からは8組10名による研究発表が行われ、スペイン語や日本語、中国語における言語や教育から、ブラジルやフランスの政治、歴史、文化、さらにはニカラグアの考古学調査、そして哲学まで幅広く議論されました。まさに、様々な学問領域の成果を地域横断的に見渡すことができ、国際言語文化学会にふさわしい大会となりました。大会終了後は場所を9号館7階のインターナショナルホールに移し、懇談会が行われました。

